

“蘭丸のふるさと” 可児市兼山を巡ろう

織田信長の小姓として有名な森蘭丸が生まれ育ったまち可児市兼山。南には古城山、北には木曾川が流れ、その間に挟まれるようにして街並が細長く延びています。かつての面影があちこちに残されており、当時の賑わいをうかがい知ることができます。自然を活かし自然と調和した街並の中に、蘭丸と森家一族の息吹を感じることができるまちです

アクセス：(電車) 名鉄広見線「明智駅」 YAOバス:約10分

(自動車) 東海環状自動車道「可児御嵩IC」 県道381号線:約10分

兼山湊跡



木曾川上流唯一の商用港として戦国時代から明治時代まで東濃地区の物流の中心地でした。現在は常夜灯と船着場の石畳が当時の名残を止めています。

兼山歴史民俗資料館

現存する日本最古の懸け造り木造3階建ての校舎を改装した資料館。金山城からの出土品や江戸時代に栄えた商家の資料等を展示しています。



貴船神社



船が重要な交通手段だった時代の人々の安全を守る水の神様「水波能売女神(みずのはめのめがみ)」を祭神とし、地域の深い信仰を集めています。

金山城址



斎藤道三の養子、正義によって古城山山頂に築城された本格的な山城で烏峰城(うほうじょう)と呼ばれました。森可成が織田信長よりこの城

を賜り、それ以後、森家3代の居城となりました。

蘭丸産湯の井戸



森蘭丸は金山城で生まれ、城に井戸がなかったため、この井戸より汲み上げて産湯に使ったと伝えられています。

蘭丸ふるりの森



金山城跡の麓に広がる自然溢れるリフレッシュ空間です。自然林を活かした散策道や千本桜をはじめ四季折々の花や鳥が迎えてくれま



発行：

地域の元気を応援します

とうしん地域活力研究所